１９９２年　　４月１７日　第三種郵便物認可（毎月３回７の日発行）
２０２０年　　10月　1日　発行　ＳＳＫＲ　増刊通巻9055号

SSKR まうんてんえこお

No.303

社会福祉法人　練馬山彦福祉会

本部
〒177-0034　東京都練馬区富士見台２－１９－９
TEL(03)3998-5023　FAX(03)3998-5035
http://nerimayamabiko-hukushikai.jp/

山彦作業所（就労継続支援Ｂ型）
〒177-0034　東京都練馬区富士見台２－１９－９
TEL(03)3998-5023　FAX(03)3998-5035
Email : ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

山彦相談支援事業所（相談支援）
〒177-0034　東京都練馬区富士見台２－１９－９
TEL&FAX(03)3970-2365
Email : ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

やまびこ第二作業所（就労継続支援Ｂ型）
〒179-0081　東京都練馬区北町7-20-36
TEL(03)3933-8935　FAX(03)5398-7681
Email : ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所（相談支援）
〒179-0081　東京都練馬区北町7-20-36
TEL&FAX(03)6906-9803
Email : ymbk2-soudan@xvd.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井（就労継続支援Ｂ型）
〒177-0041　東京都練馬区石神井町７-１７-４
TEL(03)5923-9811　FAX(03)5923-9812
Email : work@msd.biglobe.ne.jp

チャレンジワークやまびこ（就労移行支援）
〒177-0041　東京都練馬区石神井町7-１７-４
TEL(03)5923-9864　FAX(03)5923-9865
Email : c.w.ymbk@xvg.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所（相談支援）
〒177-0041　東京都練馬区石神井町7-１７-４
TEL(03)5923-9818　FAX(03)3997-3650
Email : wkcs@kzh.biglobe.ne.jp

やまびこ三原荘（共同生活援助）
〒178-0063　東京都練馬区東大泉
TEL(03)3978-6352　FAX(03)5935-6320
Email : miharaso@mue.biglobe.ne.jp

ＤＶＤ鑑賞会をしました

ワークショップ石神井

おみやげのタオルとゼリー

鑑賞するときは距離をとって

目　次

表紙 ＤＶＤ鑑賞会をしました(ワーク)
P2 山彦･第二近況
P3 ワーク･チャレンジ近況
P4 三原荘・相談支援近況
P5バザー中止のお知らせ
国会請願の報告
P6 やまびこのかぜ (三原荘)

新型コロナウイルス感染防止のため、今年は照姫祭りや日帰りバス旅行など、楽しみにしているイベントが次々に中止となってしまいました。

なんとなく不安な日々、作業をするだけの毎日に、少しでも楽しいことができないか？と考え、夏休みに入る前の８月11日、ＤＶＤ鑑賞会を行いました。

チャレンジワークと合同で行い、当日は16名が参加しました。

密を避けるため、２階と3階に分かれ、2階では映画、3階では音楽ライブのＤＶＤを上映しました。参加したメンバーは、それぞれ好きな方を選んで楽しんでいました。

窓を開けたり、扇風機を回したりして、換気をしながらでしたが、扇風機や外の音も比較的気にならず楽しめたようです。

上映後は、皆で美味しいお昼でも食べたいところでしたが、これも感染防止の観点から実現はできず、代わりにちょっとしたお土産を用意しました。

日帰り旅行などと比べれば、ささやかなものではありましたが、久しぶりに日常を離れ、メンバーの、いつもとは違う笑顔を見ることができました。

まだしばらくはこの状態が続くのでしょうが、不自由な中でも少しでも楽しい日常になるよう、工夫していきたいと思います。

（ワーク　渡辺）

１９９２年　　４月１７日　第三種郵便物認可（毎月３回７の日発行）
２０２０年　　10月　1日　発行　ＳＳＫＲ　増刊通巻9055号

山彦作業所　近況

例年ですと夏休み前日の夕方に、家族を含め外部の方をお招きし、盛大に納涼祭を行っています。しかし今年は新型コロナウィルスの影響を考慮し、家族の方や外部の方を招くことはやめようということになり、中止となりました。

毎年利用者が楽しみにしていたイベントで、例年のようにすることはできなくても、少しでも雰囲気を味わえないかと皆さんで話し合いをした結果、いつも納涼祭で食べている焼きそばや焼き鳥をお昼ご飯に食べることにしました。屋台風のお昼ご飯になりましたが、

雰囲気を味わうだけでも利用者は大喜びでした。

午後はアイスクリームやお菓子を食べながらレクリエーションでビンゴゲームをしました。感染対策をしてのビンゴゲームでしたがみんな楽しまれていました。みんながビンゴになるまで続き、景品を受け取る利用者の笑顔は今年の夏の思い出になったかと思います。

レクリエーション終了後工賃を受け取り、翌日からの９連休の夏休みに入りました。

今年は特別な夏となり様々なイベントが中止となりましたが、夏季休暇前に皆さんの笑顔が見れて良かったと思います。

（村上）

やまびこ第二作業所　近況

またきっと・・・

今秋に行く予定のバスレクが新型コロナウィルス感染防止のため、やむなく中止となりました。メンバーは残念そうではありましたが、現在の状況を伝え、これに替わる催しを検討する事で納得してくれました。

今回は、今後のバスレクやイベント復活への「願い」を込めて、今年一月に行った都内観光の写真（スカイツリー展望台）を遅ればせながら掲載させていただきました。当日は雨天の予報でしたが早朝から快晴になり、とても爽やかな日でした。皇居近くの公園の散策、オリンピック開催に向けて整備中だったお台場 有明地区の選手村、国立競技場も車窓から見学し、品川で昼食を楽しみました。終日バスレク実行委員を務めてくれたTさん、Kさん、本当に有り難うございました。

今、バスレクでの楽しそうなメンバーの写真を見る度に、支援には欠かせない行事という事を改めて痛感しています。故に、今後のイベント復活の為にも、1日も早い新型コロナウィルスの収束を願う

・・・いつか皆で楽しいバスレクに行けますように！！

有志で写真撮影

展望台で
写真をパチリ

高さ　６３４Ｍ

隅田川・桜橋が一望

１９９２年　　４月１７日　第三種郵便物認可（毎月３回７の日発行）
２０２０年　　10月　1日　発行　ＳＳＫＲ　増刊通巻9055号

ワーク近況

どこの作業所でも同じかもしれませんが、新型コロナウイルスの影響で、ワークショップ石神井でも色々なことが変わりました。

手洗い、マスクの徹底はもちろんですが、そのほかにも色々変わったことがあります。作業や食事の時に向き合って座るように配置されていた机は、人と向き合わないよう同じ方向に向けて並べられ、距離をとって座るようになりました。

換気のため窓を開けていますが、富士街道の車の音がうるさかったり、夏場はエアコンがなかなか効かなかったりと、不便なことも多いです。

コロナによる自粛生活は、作業にも大きく影響しています。ダイレクトメールの作業は、イベントのチラシなども多いため、4月ころから大幅に減っています。そのほかの下請け作業も、自粛により需要が減っているのか、依頼が減りました。

そんな中、うれしい変化もありました。昨年度から依頼を受け、打ち合わせを進めていた新しい作業が、4月から正式にスタートしました。これはパソコンを使った作業で、ワークとしては初めての試みです。全員でできる作業ではないですが、パソコンが得意な方、将来の就職のために練習したい方等を中心に取り組んでいます。

緊急事態宣言以降、時間短縮で開所していましたが、6月より少しずつ時間を延ばし、8月24日(月)からようやく従来の開所時間となりました。作業はまだ元通り、というわけにはいきませんが、4、5月ころに比べれば少しずつ増えてきています。初めは慣れなかった机の配置も、距離をとって広く使えるというメリットもありますし、車の音にも大分慣れました。

すっかり元通り、とはいきませんが、変化を受け入れながら日常を取り戻しつつあります。

一方で、生活の変化についていけなかったり、不安や緊張感からか、体調を崩しやすくなっている方も増えているように思います。

今後も続くコロナ禍の中で、これまで以上にメンバーの健康に留意しながら、メンバーの気持ちに寄り添い、安定した生活が保てるような支援を続けていきたいと思います。

チャレンジワークやまびこ近況

着任のご挨拶

9月より、就労移行支援事業所の支援員に着任いたしました**伊東**と申します。皆様方どうぞ宜しくお願い致します。

今回は、コロナ禍で中止していたメンバー待望のプログラムが再開出来たので、その紹介をしていきます。

集団プログラムの再開

これは全体プログラムで、ビジネスマナーや面接対策、体力作りのウォーキング等を全体で取組むことで、普段の個人別のプログラムとは違う、人と人との協力や調整という体験が出来るものになっております。

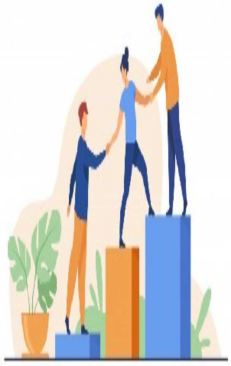
コロナ感染防止の観点からこの集団プログラムを中止していましたが、取り組む環境に配慮した形で9月から再開しました。

先日のテーマは「**面接での挨拶**」で、職員の実例にメンバーから様々な意見が飛び交いました。

「お辞儀が少し浅いように感じる。もっと深くが良いと思う」「〇〇ます～。と語尾が伸びている」等々。

これらは勿論どれも大切な視点なのですがここでは「集団の中で発言する」ことも重要な体験となっています。

このようなプログラムを通した中での、発言、交流や共有、その内容に多くの実りがあり、集団プログラムを楽しみにしているメンバーもいました。これから再び様々なプログラム実施を目指します。



日々、就労に向けてのプログラムは、決して楽しいことばかりではありませんが、それでもメンバーにはチャレンジワークに来ることで、一日何か一つでも残るものがあれば、感じるものがあればという気持ちで今日も試行錯誤しながら職員とメンバーは共に歩んでいます。

１９９２年　　４月１７日　第三種郵便物認可（毎月３回７の日発行）
２０２０年　　10月　1日　発行　ＳＳＫＲ　増刊通巻9055号

やまびこ三原荘　近況

新型コロナウイルスについて

ホーム内での主な対応

新型コロナウイルスの感染拡大と緊急事態宣言を受けて、多くの事業所が実施されていたかと思いますが、主に以下の対応をしてきました。１日１回から２回共有部分の消毒、食事サービスはタッパーに惣菜を詰めて入居者に部屋で食事をとってもらう、個々で毎朝の体温記録表に記入、ミーティングを中止にし、連絡事項は個別に伝え、レク等の中止等の対応をしてきました。

緊急事態宣言が解除されて、６月からは食事サービスは前半、後半と時間で分けて交流室で食事をとってもらっています。全体ミーティングは、２グループに分けて実施しています。関係者を交えてのカンファレンスは円滑に組みにくい状況が続きました。

入居者が困っていること

緊急事態宣言やその後、Ｂ型事業所、病院デイケア・ＯＴ、生活支援センター、職場等への通いが自粛となり、その後は徐々に日常に近い形にはなりましたが、国や自治体の対応をみながらの手探りの状態でした。朝決まった時間に起床し、身だしなみを整えて出かけ、日中活動（日課、仲間と過ごす）を行う。この日常が崩れることにより、喫煙が増えたり、炭水化物に偏る食事になったり、外で人と会わないことによって清潔を保ちにくい人もみられます。

また、ホーム内でも感染が不安なため、食事サービス、ミーティングを休む入居者もいます。諸々の状況に加えて、通過型の入居者は退居までの期限が迫るため、不安が強くなりがちです。

今後に向けて

９月に入り、世話人の体制が替り、新しい入居者が入りましたが、一同に集まることができていません。全体で集まり話し合いをもつことの大切さを改めて感じます。定例のミーティングは地域の集会所を借りてソーシャルディスタンスをとりながら実施する予定です。

しばらくの間、飲食に関わることは、どうしても小グループでの集まりが続くと思われます。「共同生活」の醍醐味がなるべく損なわれないように、みんなで知恵を出し合い、工夫していきたいと思います。（世話人　佐藤）

「土曜の昼食づくり」　ニラ玉に挑戦

相談支援近況

新型コロナウイルスの影響を受けて利用者さん達の生活は大きく変化しています。

感染が怖くて外出できない・障害特性上マスクの着用ができず店や人がいる場所に行かれない・父が仕事を失い家計が苦しくなる・日中活動先が閉まって行くところがなくなった・通所の日数や時間が減り工賃も減った・・・など多くの報告を受けました。

日中活動の場では、通常通りの事業所もあれば3密を避けるために閉所・時差通勤（時間短縮）・分散出勤（利用時間や人数を制限する）などもあり、それぞれの事業所の環境や事情に合わせた対応をとっています。

利用者さんの反応は様々で、日中活動を生活の中心にしている人は何をして過ごせば良いのか分からない状態になり、自宅でできる趣味を持つ人は思う存分没頭できる時間に、外出やコミュニケーションが苦手な人は気兼ねなく休める期間になっていたようです。家族と過ごす時間が長くなり関係がギクシャクし、ストレスになったと言う人もいました。

どのような状況であっても、今までと同じ時間に起きて散歩などの外出で筋力低下を防ぎ生活リズムを崩さないようにお伝えしました。徐々に自粛が緩和され元に戻ってきていますが、一度定着した生活を変えることは難しいため時間をかけて少しずつ戻せると良いと思います。

当事業所も一時は訪問を避けて電話中心の対応を行っていましたが、人と接する機会が減ったり、外出できないこと等がストレスになっていたようで、意外にも訪問を希望する方が多くいました。不安になっている時こそ訪問が必要、顔が見える支援は大切だと改めて感じました。

介護支援者向けの動画で感染防止を学び、訪問時は持参したアルコール消毒液で手の消毒をしてから家に入らせてもらうなどウイルスに感染しない・感染させないことを心がけています。

冬に向かって風邪をひく人が増えてきます。マスク・手洗い、免疫力向上、症状がある時は外出を控える等の感染予防対策が必要かと思いますが、神経質になりすぎて過剰な対策をしたり他人を傷つける言動には気をつけていきたいですね。

（ワークショップ石神井
相談支援事業所）

１９９２年　　４月１７日　第三種郵便物認可（毎月３回７の日発行）
２０２０年　　10月　1日　発行　ＳＳＫＲ　増刊通巻9055号

バザー中止のお知らせ

やまびこ3所では、例年10月から11月にバザーを開催しておりましたが、今年は新型コロナウィルス感染拡大を防止するため、残念ですが各所とも中止することとなりました。

バザーは利用者も楽しみにしている行事の一つですし、地域の皆様とのつながりを深めるためにも大切な行事ですので、なんとか開催できないものかと思案いたしましたが、現状では限られた空間に多くの人が集まることは避けられないため、お客様、関係者、そして利用者の健康と安全を第一に考え、中止の決断に至りました。

毎年楽しみにしていただいている皆様、またボランティアとしてご協力いただいている皆様、大変申し訳ございません。

来年以降、また皆様とともにバザーを開催できることを楽しみにしております。その際には、変わらずご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

国会請願行動の報告
署名・募金のお礼

第43次きょうされん国会請願運動では、次の5つを請願項目に掲げ、取り組みました。

1．「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律」は、国の謝罪を明記し、支給額を見直すなど、被害者の人権回復にふさわしい法律としてください。

2．障害年金を安心して生活できる水準まで引き上げるとともに、グループホームやヘルパー制度など希望する暮らしを支える制度を拡充してください。

3．「２０２１年度の報酬改定」では、必要な職員を確保して充分な支援ができるよう、基本報酬を引き上げてください。

4．障害のある人が65歳を超えても必要とする支援を自ら選んで利用できるよう、介護保険優先原則を廃止してください。

5．地域活動支援センターが安定して運営できるよう、国の責任で実態を調査し、制度を拡充してください。

きょうされんでは、１９９２年度の第15次国会請願行動から、27年連続して１００万筆を越える署名を集め、第43次の今年も１００万筆を目指して取り組んできました。しかし、２月に入り新型コロナウイルスの感染拡大影響により各地で予定されていた「がんばるデイ（街頭宣伝）」は次々と中止になりました。それでも前年度比で80％を超える署名と、70％を超える募金を集めることができました。山彦も法人全体として前年度比82％を超える署名と、80％を超える募金が集まりました。

また、例年の国会請願行動は中止となりました。紙面の写真では、昨年の国会請願行動の様子をお伝えしています。

衆議院・参議院ともに不採択という結果でしたが、私たちは引き続き、障害のある人の立場に立った要望項目で国会請願を続けていきたいと思います。ご協力いただき、ありがとうございました。

（山田）

きょうされん全体
署名：86万7，199筆
募金：26，429，116円

練馬山彦福祉会全体
署名：1，980筆
募金：65，577円

昨年参加した国会請願行動にて立憲民主党との政党懇談会に参加した様子

１９９２年　４月１７日　第三種郵便物認可（毎月３回７の日発行）
２０２０年　10月　1日　発行　ＳＳＫＲ　増刊通巻9055号

やまびこのかぜ

三原荘の滞在型に入居して

三原荘（Ｋマンション）
千葉　隆夫

令和二年九月一日（火）

三原荘の滞在型で、三原荘のサテライト、Ｋマンションに引っ越してきました。

前は、三原荘本体の三階に住んでいましたが、通過型（三年しか居られない）だったので、三原荘の世話人や関係者の助けで、運よく、滞在型に移動できました。

滞在型が決まる前は、もし三原荘ではないところに行くことになったら、生活が変わるので、慣れた三原荘の人たちと離れて、新しい人間関係を作らなくてはいけないとか、食事サービスが変わって食費が増えるんじゃないかとか、家賃がかかってお金が足りなくなるかもしれないとか、いろいろ考えて不安だったけど、三原荘の滞在型に引っ越すことが決まって安心しました。

引っ越しの際は、世話人にいろいろと手伝ってもらいました。

三原荘本体の部屋は四畳半でしたが、Ｋマンションは六畳になりました。しかし、収納スペースはＫマンションの方が押し入れが狭かったりしました。

しかし三階だったところから、二階に移ったので、足の右膝の悪い僕には助かりました。

また、隣の部屋に、僕と同じ作業所の利用者Ｋさんもいるので、心強いです。

場所が大泉なので、永楽ストアーやオリジン弁当、グランエミオと、近くで食料や生活を助けてくれる場所があり、安心です。

滞在型は長く居られるので、問題を起こさないで、長く安心して暮らしていきたいです。

～・～・～・～・～・～・～・～

通過型のグループホームは、三年間という期限が決められているため、次の住まいをどうするか、という心配をしている方も多くいらっしゃることと思います。

三年間の間に、地域でアパート等を借りて一人暮らしをすることができるようになる方もいらっしゃいますが、やはり一人では不安、という方も多く、安心して長く暮らせる滞在型のグループホームは、大切な場所であると考えています。

（ワーク渡辺）

編集委員より

暑かった夏も終わり、過ごしやすい季節になりました。今年の夏は旅行や帰省なども思うようにできず、いつもとは違う夏休みを過ごした方も多かったことと思います。９月になりGoToキャンペーンも始まりましたが、引き続き感染予防対策をしながら生活していきましょう。

（ワーク　渡辺）

編集人
社会福祉法人練馬山彦福祉会
東京都練馬区富士見台2－19－9
TEL(03)3998－5023
発行人
障害者定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷3－1－17
ヴェルドゥーラ102号室
頒価　20円